

HopStepJump ③

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

授業づくり①

— 学習指導要領と授業について —

第2回初任者研修は、「子どもの力を引き出す授業づくり」をテーマに、能勢町立能勢小中学校の辻校長先生より演習を交えてご講義いただきました。講義では、子どもたちをしっかりと見取り、関係をつくり、力を引き出していくこと、そのための声かけの方法や具体物を用いて子どもたちに意欲をもたせること等、授業づくりの心構えに重点を置き、お話いただきました。研修の後半には、指導案の書き方についてもご教授いただき、夏期休業中に実施を予定している10年経験者研修との合同実施（通称「コラボ研」）に向けての説明と合わせて、学習指導案を作成する際のポイントを確認する機会となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、「Web開催」という研修の実施方法が昨年度からおこなわれるようになりました。オンデマンド型（動画を視聴して、振り返りシートを作成する実施方法）でも、研修から学び取ろうとする姿勢や、日々の授業づくりに活かそうとする様子が提出された振り返りシートから伝わってきました。Web開催により、直接意見を交わすことができない状況でも、この研修通信を読むことで、研修を振り返ることや受講者の皆さんがつながり合い、高め合うきっかけになればと願って作成をしています。以下は、第2回初任者研修「振り返りシート」より抜粋した感想等です。

言葉がけにしても、「静かにしましょう」、「ちゃんと並びましょう」などをつい言ってしまいが、静かにするためにはどうすればいいのか、「ちゃんと」とはどういうことなのかを細かく言わないと伝わらないということを考えました。

「やる気のない子どもはいない。やり方がわからなくて困っているだけだ」という言葉が心に刺さりました。困っていることに寄り添いたいと考えました。

児童がどこでつまずきそうか、どんなヒントを与えるかを考えるためにも、児童理解に努めることが大切であるということも学びました。

コロナ禍で伝え合うことや全体で交流する方法について工夫をする必要があると思いますが、子どもたちが他の人の意見を聞くことは、より自分の意見を深めること、新たな考えを知れるなど授業の中で重要な役割があると感じました。

授業の中で一人ひとりが考えを持ち、その考えを周りの人と自分の言葉で話し合う場面を教科にこだわらず積極的に作っていきたいと思いました。

子どもの力を信じているつもりですが、教師の発言から誘導してしまっていると思います。また、子どもの力を引き出すためには、その子自身が持っている力を知ることが大切であると考えるので、まずはよく子どものことを知ることから頑張りたいです。

今回の講義で、自分の反省点が多く見えてきました。逆にできているなど思える部分もあり、そこは自信をもって続けたいです。

研修を受けている時間では、教育についてしっかり考えることができるだけでなく、自分を振り返る時間にもなるため、今の自分にはとても必要なことだと感じています。

講義の中で、授業を改善していくための手立てとして、他の先生の授業を見る、書籍を読む等、具体的に示してくださいました。何か一つでも試みると、そこには授業改善につながる気づき必ずあります。焦らず日々の授業を大切に、実践を重ねていきましょう。

豊能地区教職員人事協議会のめざす教職員像は、「子どもとともに学び続ける教職員」です。研修で身につく力は、受講者の「研修への前向きさ」でその幅と深さが異なると言われています。「参加する」「受講する」といった受動的な態度ではなく、自ら積極的に「求めていく」心構えで受講してください。